

蔭地名人 面積等の計算方法について

はじめに

このたびは、「蔭地名人」をご利用いただきありがとうございます。

蔭地名人 Ver4.0 からは、蔭地割合の計算方法を 2 種類から選択する形になっております。

このマニュアルでは、それぞれの使い方とご注意点について解説いたします。

2 種類の計算方法について

面積等の計算方法は以下の 2 種類より選択します。



●一辺（基準尺）の長さを決めて計算する

土地の一部分の長さ（距離）を基準として設定し、その長さ（距離）を元に面積等を計算します。

※元の図面の精度が高くない場合（公図などの場合）はこちらの方法をご利用ください。

（⇒解説は 2 ページ）

●評価対象地の面積を元に計算する

評価対象地を設定し、面積を入力することで、各辺の長さ（距離）を計算します（基準尺の設定は不要）。

操作の手順が簡単で、評価対象地の各辺の距離が不明な場合にも対応可能となります。

（⇒解説は 3 ページ）

<ご注意>

元の図面の精度が低い場合、各辺の長さ（距離）が実際の距離と異なる場合があります。

結果、間口距離や奥行距離などの値に影響が出るため、土地の評価額にも影響する場合がありますので、ご注意ください。

図面の精度（信頼性）が低い場合には基準尺からの方法をご利用ください。

一辺(基準尺)の長さを決めて計算する

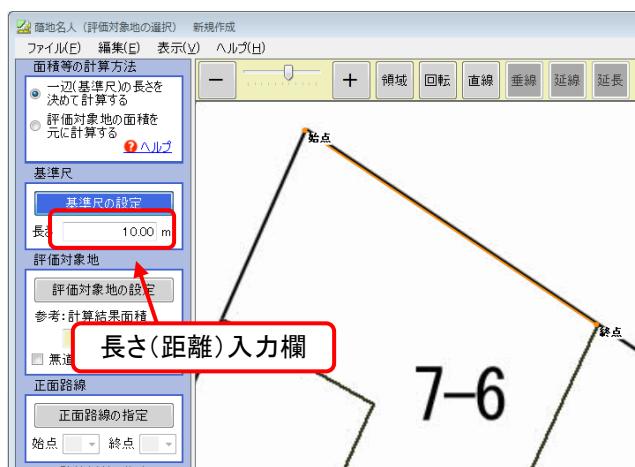
土地の一部分の長さ(距離)を基準として設定し、その長さ(距離)を元に面積等を計算します。



1

[基準尺の設定]ボタンを押し、ボタンが青色になっていることを確認します。

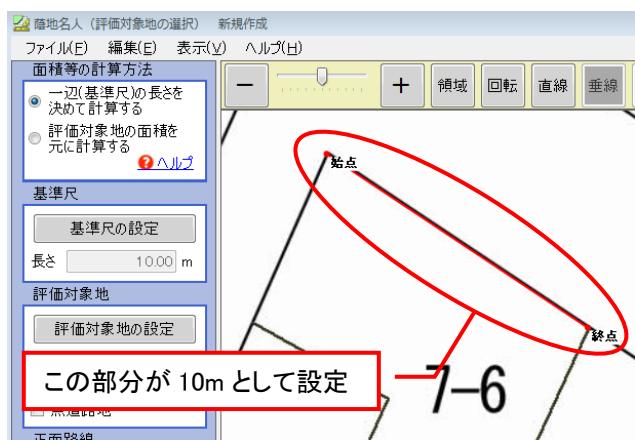
マウスで図面内に始点と終点を指定します。



2

始点～終点間の長さ(距離)を入力欄に入力(例: 10m)します。

※小数点第6位まで入力可能です。



3

[基準尺の設定]ボタンを押します。ボタンの色がグレーに変わります。

始点～終点間の長さ(距離)=10mとして基準尺が設定されます。

この後、評価対象地の設定を行い、この距離を元に面積等が自動計算されます。

【注意点】

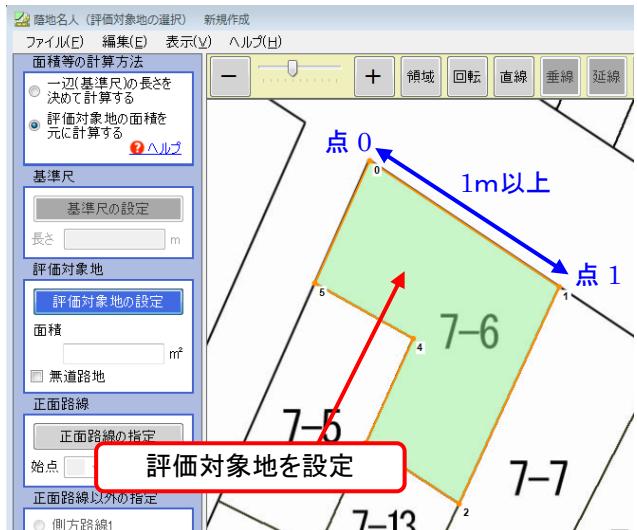
スキャナ等で読み込まれた図面の伸び縮みやヨレがあったり、公図などで図面の精度が低い場合、自動計算した面積が実際の面積(登記されている面積)と異なる場合があります。

そのため、この次の[2/3画面]では、実際の面積と合致させるために補正を行います。

面積の補正については「蔭地名人 操作マニュアル」の9ページ・13ページをご覧ください。

評価対象地の面積を元に計算する

評価対象地を設定し、面積を入力することで、各辺の長さ（距離）を計算します（基準尺の設定は不要）。



1

最初に評価対象地を設定します。

※点0～1間の辺の距離は1m以上である必要があります。最初の辺は1m以上となる辺を指定してください。



2

評価対象地の実際の面積を入力します。



3

【評価対象地を設定】ボタンを押します。
ボタンの色がグレーに変わります。

評価対象地の面積値と土地の縦横比から、各辺の長さ（距離）が自動計算されます。

※各辺の長さ（距離）は、設定した点の位置を移動させることで微調整が可能です。
操作方法は「蔭地名人 操作マニュアル」の14ページをご覧ください。

【注意点】

スキャナ等で読み込まれた図面の伸び縮みやヨレがあったり、公図などで図面の精度が低い場合、各辺の長さ（距離）が実際の距離と異なる場合があります。結果、間口距離や奥行距離などの値に影響が出るため、土地の評価額にも影響する場合がありますので、ご注意ください。

図面の精度（信頼性）が低い場合には基準尺からの方法をご利用ください。